

石田だより

令和元年度前期学校評価号

京都市立石田小学校

校長 藤内みゆき

☎(572)1411

学校教育目標

「意欲的に学び、お互いを大切にし、
心と体をきたえる子」

ishida-s@edu.city.kyoto.jp

前期学校評価アンケート

ご協力、ありがとうございました。

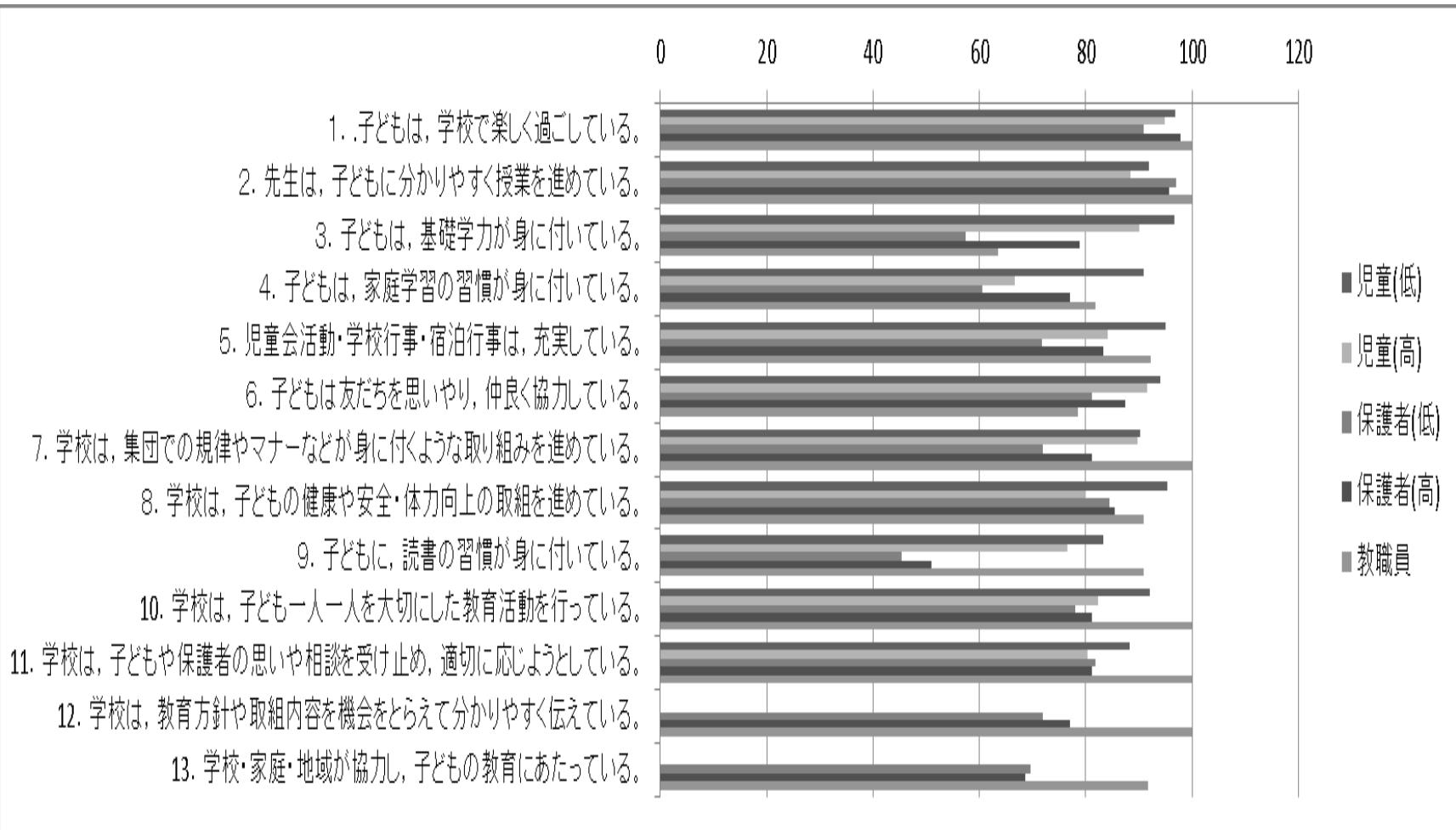
山々の木々も美しく色づき始めました。日頃より、石田小学校教育推進にご理解・ご支援いただきまして、ありがとうございます。さて、今年度前期に行いました「学校評価アンケート」についてお知らせいたします。

今年度も学校目標を『意欲的に学び、お互いを大切にし、心と体を大切にする子』と掲げ、それに迫るべく取組を積み重ねてきました。

アンケートの結果を「目指す子ども像」「目指す教職員像」「目指す学校像」に照らし合わせ、教職員で検討・分析しました。アンケートは、児童、保護者・地域の皆様、教職員に実施しました。その結果を以下のようにまとめました。地域の皆様からは、評価よりもたくさんのお声をいただきましたので、項目のところに載せてます。なお、今年度は、児童11項目、保護者・地域・教職員には13項目でアンケートを行いました。そして、各項目で「そう思う」と評価（そう思う+大体そう思う）されたものをまとめました。今回の結果を真摯に受け止め、後期において学校改善に努めていきたいと考えています。

今後とも、保護者・地域の皆様のご支援・ご協力をよろしくお願いします。

～ アンケートの結果より（保護者への質問）～



アンケートを全体的にみると、概ね「出来ていると思う」という評価をいただきました。しかし、子ども達と大人では「できている」という感じ方や考え方には差があると読み取れます。

特徴のあるいくつかの項目について、考察していきます。

3. 授業の内容は、よく分かる

この項目は、低学年からも高学年からも高評価を得ています。しかし、保護者の評価は20ポイント近く低くなっています。

これは、授業中は分かっていたが、家に帰って勉強

しようとするとどのようにしていたか忘れてしまったり分からなくなってしまっていたりしているのではないかでしょうか。その様子や姿を保護者の方が見ると「ちゃんと学校で勉強して来ているのかな。」と感



じられているのでしょうか。

学習は、一度聞けば分かるというものではありません。何度も何度も繰り返し練習し経験してこそ身に付きます。また、日常生活で使うことにより、必要感も増し、学習意欲も湧いてきます。その上で、励ましの言葉と大人の「待つ姿勢」が大切だと思います。

4. 自分から進んで家庭学習をしている。

この項目は、高学年の児童と低学年の保護者のポイントは低かったです。学習は学年が上がるほど複雑になり、簡単に結果が出ません。それで、ちょっと二の足を踏んだり他のことに気をとられたり…。それを高学年の児童も自分自身で感じているのでしょうか。今結果が出なくとも続けていけば、結果は出てくるでしょう。ここでも「あと一息。」「もう一回挑戦しよう」とはげましてあげてください。ゴールをどこにもってくるのか、子ども達と一緒に話し合ってください。学校でもそのようにしていきます。

低学年は、「机の前に座っていて何をしているのやら…」と思っておられるのではないでしょうか。机があるからすぐ学習…とは行きません。大人も物事に対して苦手に思ったり不便だったりすると、価値を見いだせず、物を粗末に扱ったり長続きしなかったりするのではないかでしょうか。

低学年の子どもには、まず「学習」というものの価値を実感させましょう。「～ことができるようになった。」「～が分かったら楽しい。」ことを知らせ、だんだん「学習」という姿に変えていく。しかし、これには大人のエネルギーもたくさんあります。子どもとの根比べです。



9. 本を読むことが好きで、毎日読書をしている。

子ども達は、低学年も高学年も「実行している。」と回答しています。でも、保護者は、低学年も高学年も「本当にできているの？」と感じていると読み取れます。なぜなのでしょう。それは、子ども達が家で本を読む姿を見受けられないからでしょうか。

子ども達は、学校の図書館を大いに活用しています。朝読書、テストが早くできたら、給食の準備中に…、もちろん休み時間などにも読書をしています。しかし、家ではあまり読んでいないようです。実際「家では、読まない。」と言っている子どももいます。

まず考えられるのは、家に自分が読みたい本がない、本棚がないということです。本は、とてもかさばり重いものです。また、一度読んでしまったら、もう一度というのは、結末が分かっているだけに子どもにとっては難しいことです。

しかし、石田小学校は読書環境に恵まれています。それは、近くに醍醐図書館があるからです。本を買う必要や本棚を用意する必要はありません。一度読んだ本は、借り直



せばいいのです。家族や親子のお出かけ先に図書館はいかがでしょうか。大好きなお家の人と行けば、子ども達も楽しいと感じるはずです。

13. 学校・家庭・地域が協力し、子どもの教育にあたっている。

低学年・高学年の保護者が「ちょっと…」と思っているように感じるポイントでした。

学校としては、学校行事やPTA行事などいろいろご協力いただいていると思っています。

また、地域の方も概ね「できていると思う」と回答いただきました。

今、子どもの人数が減ってきてています。学校・地域が大きな家族となって、大人が同じ方向を向いて子育てをしていければ、子どもの心はゆったりし、素直に育っていくのではないかでしょうか。また、安心して過ごせる場所や傷つけられても力強く羽ばたけるでしょう。



子どもにとって、心安らげる地域になるよう、学校・保護者・地域が協力していきましょう。よろしくお願ひいたします。



今まででは、厳しい面を考えてきましたが、うれしい面もありました。それもあげていきたいと思います。

1. 学校は、楽しい。

全ての人たちが90ポイント以上という回答です。うれしい限りです。ただ、少数でも「うーん。」と感じている子どもにとっても楽しくなるよう、学校の取組を見直していきたいと思います。

ただ、何事も楽しい場面ばかりではありません。厳しいことやつらいこと、悲しいことなどを乗り越えたところに「本当の」楽しさや嬉しさがあります。今、自分がどこにいるのか、これからどうしたいのか、相談にのれる場所が学校であるように、これからも教職員が力を合わせていきます。



2. 先生は、ていねいに分かりやすく教えてくれる。

これもうれしいことです。正直言って、教員は毎日次の日の授業はどうすれば分かりやすいだろうかと考え、教材を考えたり準備したりしています。

そのことをみんなに理解してもらっているということは、教員としてこの上ない喜びです。

職員も表に出ることは少ないですが、そんな教員を広い部分で支えています。その支えがあって、授業が成り立っています。

これからも教職員は力を合わせ、子ども達の成長に力添えをしていきます。



学校からお願いしていることは、学校も努力し実践することだと考えています。今後とも、ご協力ご支援をよろしくお願いします。